

旧長南幼稚園活用住民説明会 概要

開催日時 令和3年2月7日（日）13時30分から15時03分
場 所 長南町保健センター2階 第1会議室
出席者 (町民等) 21人
（町執行部）平野町長、小高教育長
田中企画政策課長、三十尾総務課長、今井財政課長
事務局 企画政策課 三上課長補佐、渡邊係長、林、佐久間
(事業提案者) 株式会社ユニオン産業 木村工場長、生野部長
NPO法人竹もりの里 鹿嶋理事長

会議の概要

○町長あいさつ

本日は、旧長南幼稚園の活用について町民の皆様に提案する場として、住民説明会を開催させていただきました。コロナ禍ではありますが、感染防止対策を万全に講じたうえで開催し、皆様の理解を得られるようであれば、今年度内に旧長南幼稚園の活用に道筋をつけたいと考え、開催に踏み切らせていただいたところです。

本町では既に町内4小学校の廃校に民間企業を誘致し、地域の活性化、町の発展に繋げ、長南町に活気と賑わいを取り戻したいという強い思いで取り組んでいます。旧長南幼稚園の施設は、平成18年度末に閉園し、その後は平成30年度まで放課後児童クラブで活用していましたが、現在は空き公共施設となっています。私としては、この旧幼稚園についても、廃校と同様に民間企業等に貸し付け、施設の維持管理経費削減と同時に、地域の活性化や課題解決につながるような有効活用を図りたいと考えています。今回の「株式会社ユニオン産業」、「NPO法人竹もりの里」からの提案につきましては、管理されずに荒れた竹林の竹を、抗菌作用の高いバイオプラスチック製品の原材料として活用し、これが竹害の減少、里山保全につながるという内容です。

町としても十分に精査したうえで、空き公共施設活用検討委員会の委員の皆様にもご意見をいただき、その結果を踏まえて、本日の住民説明会に至ったところです。

本日は提案者からの説明をお聞きいただき、ご意見等をいただきたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

○旧長南幼稚園活用の検討経過について（企画政策課長）

旧長南幼稚園については空き公共施設となっており、従前から千葉県や町ホームページを活用した情報発信や企業誘致フォーラムへの出展などのプロモーション活動を行ってきた中で、株式会社ユニオン産業、NPO法人竹もりの里から活用提案を受けました。今回はこの2者合同による活用提案となります。この提案について町執行部で内部協議を重ね、町の将来に向け活性化が期待できると考え、昨年9月29日に「空き公共施設活用検討委員会」を開催しました。委員の皆様からは特段の反対意見はなく、町の活性化に繋がるなど概ね肯定的なご意見をいただきました。また12月9日、1月19日の2回にわたり、議会全員協議会で説明を行い、本日の住民説明会に至ったところです。

2者の相関関係は、竹もりの里が長南町の地域資源である里山、長年放置された竹

林の整備を行いながら、伐採した竹を粉碎し、それをバイオプラスチック製品の原材料としてユニオン産業が買い取ることで、協働して森林資源の有効活用につなげる図式となります。施設活用にあたっての諸条件としては、①地域雇用に係る労働力の確保、②災害時の防災関係の地域連携、③地域行事、イベント協力関係、④地域特産品の協力などを前提に協議を行っている状況です。

○旧長南幼稚園活用提案について

《提案事業者1》

株式会社ユニオン産業 神奈川県川崎市中原区井田杉山町2-3

代表取締役 森川真彦

- ・設立年月日 昭和35年2月
- ・資本金 1,000万円
- ・従業員数 約30人
- ・事業内容 プラスチック製品製造業

プラスチック成形加工を主体としたオリジナル商品企画・設計・開発・販売。自然由来の原料を52%配合し抗菌作用もある環境樹脂素材「UNI-PELE（ユニペレ）」を自社独自開発し、バイオプラスチック製品として食品トレイ、箸、花立て、ポット、ペット用ボウルなど多種商品に展開。

《提案事業者2》

NPO法人竹もりの里 長南町本台658-1

理事長 鹿嶋與一

- ・設立年月日 平成22年9月
- ・正会員17人、サポーター会員24人
- ・事業内容 里山再生、里山資源の有効活用や普及啓発に関する事業等

《提案内容》

- ・旧長南幼稚園を竹の駅として活用し、竹の集荷システムを確立する。
- ・町内の竹林所有者が竹を伐採して旧長南幼稚園に運搬し、竹もりの里が軽トラック1台分（約400kg）を4,000円程度で買い取り粉碎し、これを更にユニオン産業が買い取ることで、主力商品「ユニペレ」の原料を確保する。
- ・竹の集荷、粉碎、乾燥の工程を旧幼稚園で実施する。
- ・長南町で竹の伐採が進むことにより、地域課題である竹害の軽減に貢献すると同時に、ユニペレの原料を安定供給できるメリットが見込める。
- ・竹は5年で成長するため、資源として枯渇することがなく、安定した供給を見込める。
- ・現在は四国、九州からも竹材を取り寄せているが、長南町は圏央道のアクセスがよく、神奈川県の工場への輸送に利便性向上、コスト削減が期待できる。
- ・雇用創出は当初1~2名を地域雇用する見込み。
- ・竹の集荷のほか、従来から竹もりの里が取り組んでいるワークショップやイベント、里山体験等により、都市住民の交流人口増加に貢献する。

（詳細は説明資料参照）

○質疑応答（要旨）

質問.

ユニオン産業の売上げと業績はどのようにになっているのか？竹もりの里から長南産の竹を調達することにより、既存の四国、九州からの納入に加えて事業拡大するのか、または既存の取引をカットして長南産のみに切り替えるのか？

回答. ユニオン産業

売上実績は昨年で2億5千万円位、収益は15%から20%程度です。竹の調達は旧長南幼稚園を活用させていただけることになれば長南産に一本化したいと考えています。

回答. 企画政策課長

町でも企業の決算報告書により直近の業績等を確認しており、心配はないものと判断しています。

質問.

作業により環境的な問題はないか？車での搬入、搬出については、正門側と園庭側でどちらから出入りするのか？

回答. 竹もりの里

環境について、騒音に関しては実際に騒音測定を行いました。町の公害防止条例では日中で60dB以下（敷地境界線上での測定値）の基準があります。作業現場では100dB位でしたが、園庭側の入り口付近では60dBを下回りました。隣の工場（アルファ）付近では50dB前後となり、至近の民家付近では40dB台の数値で、実際に耳で聞いたところでは、通り過ぎる車の音にかき消されるレベルでした。臭いについても問題はなく、粉塵についても竹は水分を含んでおり重さがあるため舞い散ることはありません。

搬入搬出は園庭側の出入口を通り、園舎付近で荷下ろしをするように考えています。

質問.

通年で竹を引き買ってくれるのか？また、伐採後にどの位の期間まで買い取ってもらえるのか？

回答. 竹もりの里

通年で買取りが可能です。伐採後は長く放置するとカビが出て土壤改良材としても使用できなくなるため、できるだけ早めが理想ですが、長くて2週間以内位を目安にお願いします。

質問.

幼稚園はトイレ等の設備が園児用になっていると思うが、改修は行うのか？行う場合の事業主体はどこになるのか？

回答. 企画政策課長

現状は改修されていませんが、必要な改修は今後活用事業者により行っていただすこととなります。

質問.

同様の事業を他の地域で行う考えはあるのか？

回答. ユニオン産業

同じ事業を他の地域で行う考えはありませんが、色々な自治体と地場産品の企画開発等のプロジェクトに取組むことはあります。

質問.

この事業で考えられる問題点はあるか？

回答. ユニオン産業

これまでの実績からは問題になった事例はありません。自然由来の原料を使用して環境型に特化した取り組みであり、作業工程上も配慮しています。例えば化学薬品が漏れるといったような問題もありません。考えられるのは、先ほども説明があった竹を粉碎する音の問題がありますので、この点は十分注意していきたいと考えています。

質問.

対象になる竹は長南町の竹に限定されるのか？長南町の竹に限定されるのであれば、商品名に「長南町産〇〇」と表示することは可能か？

回答. 竹もりの里

資料には長南町近隣と記載していますが、長南町の施設活用になるので、長南町の竹を優先的に使わせていただきたいと考えています。収量が足りない場合は近隣からの集荷を受けることもありますが、できるだけ長南町の方に竹をお持ちいただきたいと思います。このため、長南町産の表示は難しいかもしれません。

質問.

近年、レジ袋の有料化やマイクロプラスチックの問題など、プラスチックの問題が多々あるが、ユニオン産業のバイオプラスチック製品については、竹が52%で多いとはいえプラスチックが48%あり、事業としてプラスチックを大量に売っていくことと、プラスチックの問題の兼ね合いをどのように考えているか？

回答. ユニオン産業

環境問題は大変重要です。その中で、樹脂は世の中のあらゆる製品に使用されてお

り、樹脂が世の中から無くなることは当面ないと考えます。そのため、樹脂をなるべく自然環境に近いものにしていき、現在は52%ですが将来的に70%、100%としていくことで環境に優しい取組みになると考えます。バイオプラスチックには、バイオマスプラスチックと生分解性プラスチックがあり、弊社では両方とも取り扱っていますが、この製品はバイオマスプラスチックです。植物由来の配合率を52%に拘った理由は、配合率50%以上で一般可燃ごみとして認められ、焼却処分することができる点になります。そういうた樹脂の技術の変化に追いつくように取り組んでいくよう考えております。

質問.

竹の粉碎作業を行う稼働時間帯と日数はどのようになるか？

回答. 竹もりの里

時間帯は9時から14時頃で通学時間帯を避けるように考えています。1カ月当たり軽トラック20台分程度の処理を想定しており、13日程度になる計算となっています。

質問.

里山が荒れてしまう理由に伐採をする人が減っていることがあると思う。竹を買取っていただけるという話だが、そもそも面倒だからとか技術がないという人が多い。月20台の竹が集まらない場合は近隣に範囲を広げるということだが、長南町の施設活用なのだから長南町の中で環境改善をしなくてはならないので、伐採に対する町民理解を深める必要がある。そこの継続性をどのように考えているか？

回答. 竹もりの里

買取りがきっかけになって一人ひとりの方々積極的に取組んでいただけると良いのですが、難しい場合は我々が出向いて作業するにも限界があるため、地域で組織作りが進んで自主的に回していくべきだと思います。シルバー人材センターに依頼する方法だと費用はかかりますが、竹を買取ることで多少は費用を下げることができます。我々も今は月に1回しかボランティアの整備活動ができていませんが、回数を増やしていくべきだと思います。

回答. 企画政策課長

議会でも同様の意見があり、高齢化が進んでいる中で伐採・運搬は大変な労力なので、竹林に機械を移動して現地で粉碎作業をしたらどうかといった意見がありました。この点について鹿嶋理事長と協議を重ね、関係者への働きかけにより10名程度の賛同者がいるので、そこからネットワークを作り、情熱をもって取組みながら、口コミによる広がりにも期待し、長南町管内で完結できることがベストだと考えております。

質問.

年配の方だけでなく、中には若い世代でもノウハウがない人や子育て中の人が、竹林を持っているけど伐採作業に取組めない人もいると思うので、空き家バンクのよう

に「竹林バンク」のような仕組みも検討してみてはどうか。

回答. 竹もりの里

素晴らしいアイディアありがとうございます。そのような運動が大事だと思いま
すので、実際に取組んでいく中で工夫を加えていきたいと思います。

質問.

軽トラックで竹を搬入する際の計量は重量で計るのか、体積でみるのか？長さは決
まりがあるのか？また、孟宗竹に限定するということだが、最近の真竹は太くて孟宗
竹に近いものもあるので、間違って真竹を搬入してしまう人もいるのではないか？

回答. 竹もりの里

計量は重量で正確に計りたいと思います。長さは概ね2.4m以内であれば短くても大丈
夫です。見分け方については、旧幼稚園にサンプルを展示していきたいと思います。

質問.

孟宗竹と真竹で加工する際に違いがあるのか？

回答. ユニオン産業

竹は地域により成分量等が違い、種類により硬さなども違うため、製品上の統一性
のため孟宗竹に統一している状況です。

質問.

旧幼稚園に搬入した竹を粉碎、乾燥作業を行うということだが、この場所を使うの
は主に誰になるのか？

回答. 竹もりの里

基本的には両社で使いますが、粗粉碎までの作業は竹もりの里が行い、その後の微
粉碎、乾燥はユニオン産業が行います。事務所も共同で使いたいと考えています。

意見.

この取組みは非常に良いと思う。竹林が整備され製品ができることがとても良いと
思うが、発展の可能性についてどのように考えているか？

回答. ユニオン産業

樹脂に関しては生分解性プラスチックとバイオマスプラスチックのどちらかの方向
で動いている過渡期にあり、世界的にも注目されている成長分野でありますので、発
展に期待したいと考えております。

質問.

雇用創出も目的の一つにあるが、作業内容など具体的に決まっていることはあるか？

回答. ユニオン産業

粗粉碎、微粉碎、乾燥の作業や、搬入の受け入れ態勢のための人員が想定されます。

質問.

進出後は地域に対する区費を支払っていただけるのか？

回答. ユニオン産業

その点についてはきちんと貢献していきたいと考えております。

○町長あいさつ（総括）

長時間にわたりご意見をいただきありがとうございました。本日のご意見をお聞きする限りでは、2者の進出について概ねご理解をいただけたのではないかと感じております。騒音については、騒音測定に私も立ち会いました。数値的には基準をクリアしていますが、人によって感じ方が違うこともありますので、万が一実際に問題が生じた場合には、改善するように町から企業へ働きかけていきます。

今回の提案により町の財産を貸し付ける理由は、地域課題の竹害を減少して里山を再生していくための動機付け、きっかけになればということであり、長南町の竹を使用して製品を作っていただくことが大前提となります。竹が集まらない場合は近隣の竹を使うことも想定しているという説明もありましたが、町としては、できるだけ町内の竹を使っていただきたいと考えています。実際に竹が調達できるのかという心配の声もありますが、本日のご意見にもありましたように、色々なシステムやネットワークづくりなど、アイディアを出して竹の調達に支障がないように進めていただきたいと思います。

このような企業が来てくれるということで、町として理解して応援していければ、企業としても発展し、町にとっても良い方向に向かうのではないかと思いますので、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

本日は皆様に概ねご理解をいただけたと思いますので、今後は、財産の貸付について、議会に諮っていきたいと思います。今後も状況をしっかりと見極めながら、町民の皆様にご心配のないように進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひ致します。本日は長時間にわたりありがとうございました。

○閉会

以上